

## 民生委員が行う高齢者の生活を支える活動における ネットワーク構築に必要な要素の検討（第1報）

横浜市立大学 河原 智江（会員番号 7266）

キーワード： ネットワーク、民生委員、評価方法

### 1. 研究目的

わが国の高齢者を取り巻く状況は、高齢化に伴う要介護高齢者及び支援が必要な高齢者の増加、核家族化の進行に伴う家族による介護機能の低下、都市化の進展によるコミュニティの希薄化などが進行している。

これらの状況は、年々深刻な状態となっており、例えば、高齢者の孤立死などはどの地域にも起こりうることであり、それを未然に防止するためには、身近な地域の中で高齢者の生活を支えるしくみをつくることが急務の課題となっている。

このようなことを踏まえ、地域においてはさまざまな取り組みが行われているが、高齢者の生活を支えるネットワークを構築していく上で、重要な役割を担う第一人者は民生委員である。現状においても、住民と自治体の間で橋渡し役として活動を行っているが、民生委員の高齢者に対する支援内容は、極めて専門的なことやプライバシーに深くかかわることも少なくない。

しかしながら、多くの住民をはじめ、高齢者にかかわる保健医療福祉の関係機関においても、民生委員の活動やネットワークの構築の実際を知らないこともあり、民生委員と協働する段階にない場合も多いと考えられる。

以上から、現状の民生委員が行っている高齢者の生活を支える活動から、ネットワーク構築に必要な要素を明らかにするとともに、民生委員の活動の評価のための基礎資料を得ることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

研究の視点は、民生委員の活動の実際から、民生委員が捉えたネットワーク構築に必要な要素を明確にすることである。

研究方法は、質的帰納的アプローチにより、インタビューを行うとともに、フィールドワークを行った。研究期間は、2009年10月～2010年10月であった。

高齢者の見守り支援を実施しているA自治体において活動をしている民生委員10名を対象として、あらかじめ作成したインタビューガイドに基づき、インタビューを実施した。インタビュー内容は、民生委員の活動については、行っている活動内容の詳細、活動の方法、支援の対象者の状況、活動を行う上での課題、ネットワークを構築する上で必要（あるいは重要）と考えること、活動を推進するための方法などであった。

また、民生委員の活動として、高齢者の見守り支援の活動、民生委員間の意見交換などをフィールドワークにより観察し、ネットワークに関わる内容を記録としてまとめた。

分析方法は、インタビューについては、逐語録から民生委員の活動とネットワークに関連する文脈に着目し、ネットワーク構築に関わるコードを抽出した。抽出されたコードとフィールドワークにおける記録から、ネットワーク構築に関わる内容をサブカテゴリ化し、さらに抽象度をあげてカテゴリ化した。サブカテゴリ及びカテゴリから必要な要素を抽出した。

分析にあたっては、高齢者保健福祉及び民生委員の活動に詳しい専門家からスーパービジョンを受けて妥当性を確保した。また、ネットワークに関わる内容のカテゴリ及びサブカテゴリの真実性については、対象となった民生委員にフィードバックし確認してもらった。

### 3. 倫理的配慮

研究の開始前に、報告者が対象者である民生委員 10 名に本研究の趣旨を十分に説明し、自由意思により研究参加の同意を口頭及び文書により得た。さらに、インタビュー及びフィールドワークを実施する前に、再度、研究について説明を行い、研究参加意思について確認した後に実施した。なお、本研究は、横浜市立大学倫理審査会の承認を得て実施した。

### 4. 研究結果

対象となった民生委員は、年齢は 66～73 歳であり、全員女性であった。民生委員経験年数は、2～8 年であった。インタビューは 1 回 30～60 分、一人につき 3～6 回実施した。

分析の結果、ネットワーク構築に関わる内容として、3 カテゴリ、12 サブカテゴリが抽出された。以下、カテゴリは【 】として、サブカテゴリは< >として示す。

【支援が必要な高齢者との関係】では、<信頼関係があること>、<おしつけにならないこと>、<関わる意味を理解してもらうこと>、<適度な関係を保つこと>が抽出された。【民生委員同士の関係】では、<活動の内容を共通理解していること>、<何でも相談できる関係であること>、<活動の内容により柔軟に協力すること>、<それぞれの活動を認めること>が挙げられた。【関係機関との関係】では、<いつでも何でも相談できること>、<お互いの活動の実際を知ること>、<定期的に意見交換ができること>、<めざす目標が明確であること>が抽出された。抽出されたカテゴリ及びサブカテゴリに共通するネットワーク構築に必要な要素は、“活動の枠組み”、“役割分担とリーダーシップ”、“活動における場”、“関係性”、“変化への対応”の 5 つに整理された。

今後は、5 つに整理されたネットワーク構築に必要な要素について詳細に検討することと、抽出された要素と民生委員の活動との関係を評価するための指標等を含めた評価方法を検討していくことが課題である。